

# 平成20年度 第4回八戸市健康増進課学習会

平成20年 8月27日(水) 八戸市庁

## 子供に多い耳鼻咽喉科疾患

西村耳鼻咽喉科医院

西 村 哲 也

序、みみ・はな・のどはつながっている

### A. こどもの耳の病気

#### I. 耳垢：耳垢洗浄の実際

II. 急性中耳炎：主に肺炎球菌、インフルエンザ菌、モラクセラ・カタラーリスの3大鼻咽腔常在菌の何れかの病的増殖により発症。何れも薬剤耐性菌が増加。2歳以下は肺炎球菌が多く、ペニシリン系抗菌薬が第一選択。重症中耳炎には積極的に鼓膜切開を行うべき。夜中に子供が急に耳が痛いと言き出した時、アセトアミノフェン座薬が有効。

III. 滲出性中耳炎：発症から3か月以上経過した慢性期が難治。遷延化因子である慢性副鼻腔炎、アレルギー性鼻炎等の治療が重要。真珠腫性中耳炎手術例：11歳男児、内耳炎合併例、鼓室形成術により聴力改善。

#### IV. 小児難聴：新生児聴覚スクリーニング検査：

① DPOAE (distortion product otoacoustic emission：歪(ひずみ)成分耳音響反射) 検査 ② AABR (automated auditory brainstem response：自動聴性脳幹反応) 検査 (①と②の比較、当院での実際の測定例を提示) ③ 発達検査：田中・進藤式、遠城寺式。精密聴覚検査：① ABR 検査 ② ASSR (auditory steady-state response：聴性定常反応) 検査 ③ BOA (behavioral observation audiometry：聴性行動反応聴力検査) ④ COR (conditioned orientation response audiometry：条件詮索反応聴力検査) 等。先天性難聴の1-3-6ルール(生後1か月スクリーニング、3か月精密検査、6か月補聴開始)。後天性小児難聴：髄膜炎後性、ウイルス性(ムンプス等)、家族性、滲出性中耳炎等。耳鼻科3歳児健診の主な目的：両側中等度難聴(言語発達に影響)の検出。

V. 小児のめまい：小児のめまいの原因：起立性低血圧、動揺病が多い、まれに脳腫瘍。動揺病は乗車による平衡覚各入力系(眼、耳、深部知覚)への不規則な刺激に対する脳の順応不全

(訓練不足)であるので平衡訓練が有効。

### B. こどもの鼻の病気

I. アレルギー性鼻炎：全体的な有症率の増加(特にスギ花粉症)と低年齢化傾向が問題。環境要因の影響(衛生仮説：免疫系 Th2優位、等)が大きい。圧倒的にハウスダストやダニ等の通年性抗原が多い(特に5歳以下は重複感作も含め100%陽性との報告も)。鼻閉が多い(夜、冬)。眼のかゆみ、反復性鼻出血も。季節性抗原はスギに次いでカモガヤが多い。八戸の6月の花粉：イネ科植物(カモガヤ等)、9月の花粉：キク科植物(ヨモギ、ブタクサ)の実際。下鼻甲介粘膜焼灼術(CO<sub>2</sub>レーザー)施行例：8歳男児、鼻閉改善。

II. 副鼻腔炎：急性副鼻腔炎の検出菌：急性中耳炎と同様。慢性副鼻腔炎：滲出性中耳炎、アレルギー性鼻炎合併例が多い。14員環マクロライド系抗生剤の少量長期投与療法が有効(抗菌作用よりも、消炎作用や免疫調節作用や粘液分泌調整作用による)。手術治療はまれ。

III. 鼻出血：キーゼルバッハ部位からの出血、アレルギー性鼻炎が多い。まれに血液疾患、鼻咽腔血管線維腫が原因の事も。電気凝固の実際。

### C. こどもの咽喉頭(のど)の病気

I. 閉塞型睡眠時無呼吸症候群(obstructive sleep apnea syndrome：OSAS)：小児のOSASの特徴・実際。

II. 慢性扁桃炎：習慣性扁桃炎(年4回以上の反復)、扁桃病巣感染症(掌蹠膿疱症、胸肋鎖骨過形成症、IgA腎症等)、口蓋扁桃摘出術について。

III. 声帯(謠人)結節：男子学童の声の出しすぎ、沈黙療法(声の衛生指導)、音声治療(発声法の指導)で改善。部活をやめると治る場合も。

IV. 急性声門下喉頭炎(仮性クレープ)：ジフテリア感染による喉頭炎(真性クレープ)に対する名称。3歳までの乳幼児に多い。犬吠様咳嗽、吸気性呼吸困難。